

人事必修！

人材育成十二観抄

今こそ、先哲の教えを人と組織の成長に活かそう

株式会社 末永イノベーション経営 末永 春秀

■ 幾つもの山を乗り越えるために

人材育成は、人が育つことを一心に願い、難事があっても諦めずにハードルを乗り越えて、また乗り越えて進む一大事業です。「山上山在り山幾層」（山の先に山が聳え、その先にもまた山が聳えている意）の道程です。人材育成を担う方々が、このテーマに日夜真剣に取り組んでおられますが、人材育成は方法論と共に根本的な人材育成思想が重要です。なぜなら、人材育成は、ある段階まで来たらまた次の段階、ここまで辿り着いたらまた次の目標というように際限ないものです。

管理者から、人材育成はどこまでやればいいのか、と質問を受けます。人材育成に、もうこれでいい、ということはありません。しかし、育成の方法論で行き詰まると育成が見えなくなります。これは方法論で行き詰まっているのではなく、人材育成の根本思想が、広がっていない、深掘りされていないから方法論が見えてこないのです。先哲の言葉を通してこれを学習する機会としていただければ幸いです。

構成

- 一 立志観 而立人材こそ育成の指標である
「志は気の帥なり」「人になれ人 人になせ人」
- 二 志学観 志が人材育成の連鎖を生む
「志立たざれば、閑事のみ」「福沢、枕を用いることなし」
- 三 人間観 人材の特性を受容し指導する
「その人に固有の用あり」「本来的自己が人の心を打つ」
- 四 人生観 利他の心で育成に臨む
「自未得度先度他」「順中の逆あり、逆中の順あり」
- 五 努力観 立ちはだかる壁は成長の機会である
「一切は努力の二字に根ざす」「千日・万日の稽古を鍛・錬と言う」
- 六 成長観 問題に向き合い希望を見出す
「悪事をはたらき、善事をたのしむ」「そのつどの意味を実現する」
- 七 読書観 人は生涯学び続けて成長できる
「少・壮・老にして学ぶ」「人間として読み、心の糧とす」
- 八 実践観 日常の積善が実践の原点である
「小事の工夫が大修行」「小善が徳をもたらす」
- 九 人格観 人生や仕事を通じて磨き上げる
「性格+哲学=人格」「人は逢うべき人に必ず逢える」
- 十 自己観 自分自身が今の人生に意味を持たせる
「自己陶冶の力は自己の生命に内在す」「私たちは問われている存在」
- 十一 育成観 社会に向けて育て上げる
「世のため人のために」「心と物の奥にいま一つ」
- 十二 人物観 人を育てられる人を育てる
「人は如何にあるべき、為すべきか」 成長し続けるために

■ 末永 春秀（すえなが はるひで）：

経営コンサルティング歴28年。明治大学卒。社会保険労務士の実務経験の後、経営が良くならないと人事労務は良くならないと発心。(株)日本経営入社。取締役副社長を歴任。立志独立。事業、組織、人材のイノベーションをテーマとしている。経営実務コンサルとして真剣で熱意ある指導によって幹部の意識が変わった、業績が改善した事例を数多く持つ。人材育成について高い見識からの本質を突く助言と実践的な指導を行う。モットー「心を高める 経営を伸ばす」。 <http://www.suenaga-keiei.co.jp/>

